

科学フェスタ企画案

12月17日(土) 15:15~17:00

「若手科学者と語る学術の未来—明るい未来を切り拓くために—」

人数：200名

目的：高校生や大学生に科学者を身近に感じてもらう。議論の面白さを体験する。

企画内容：高校生や大学生を交えたグループを数個設け、グループ内の若手（研究者）が中心となり、事前に配布した資料をもとに「学術の未来」を語る。最初に自分達の研究をわかりやすく伝える。その後、グループでテーマ（?年後の学術、未来）について議論し、どう未来が描けるかの案をまとめ、最後に全体で発表を行い、優秀賞をきめる。

事前準備：

・若手は事前に資料を作っておき、それを参加者（動員をかける）に配っておく。資料は、添付参照（高橋さんが一般向けにつくったもの。書店に並ぶ雑誌記事のような雰囲気、一般の人が気軽に手にとりサラッと読めるような内容、魅力ある写真。）。それは事前につくっておいて、お互いに辛辣な意見をいってよいものを作っておく。（←準備、かなり必要ですが、時間がないので早急に。高橋さんもこれでも納得いってないそうです。）

・参加できる若手で3人組をつくり（分野問わず、クジなどで。）、事前に自分達の分野を無理にでも融合した場合、どんなことができるのか。あるいは、どんな共通概念があるか、どういう問題が解決されそうか。などを話しあっておく。ある程度いくつか話題を事前に参加者に配布する資料につけておいてもいいかと。（その方が、少ない時間の中でどんな議論がなされるか、わかるかも）あるいは、つけない方がいいのかもしれない。グループ内の若手研究者が自分達の研究をわかりやすく話しおえたあとに、それを踏まえて、どんな意見がでてくるのか、展開がおこるのか。の方が面白いかも。

用意するもの：

- ・各グループにホワイトボード
- ・プロジェクタ
- ・椅子

問題点：

・参加人数が200人を想定し、グループ内で意見をいえる人数を考えると最高15人で13~14グループ。そこに3人の研究者を配置させるとすると、40人程度必要。若手

メンバーだけでも足りない。

・5グループにわけると、1グループあたり40名弱になる。それで活発な議論ができるか。

- ・高校生を200人もよべるのか。
- ・島になれるスペースが確保できるのか。

アピールポイント：

- ・能動的な参加ができる。
- ・自分も一緒になって議論できる
- ・同年代の生徒・学生達の考えを知れ、刺激される。

その他：

・グループに配置する研究者の不足について・・・大型研究費をもらっている研究者や白眉センターのメンバーに参加協力を依頼する。

・当初企画としては、「ノーベル賞級の科学者の生き様ではなく、手に届く範囲の若手の科学者の日常を示して、研究者をそれほど遠くないものと感じ、學術のほうに進んでみたいという意欲をかきたてる。」というものだったので、そういうことも意識しておく。

参考)

ルームA 前のプログラムは、子供向けの科学ショーのような内容で、「スクール形式」の会場設営

ルームB 同じ時間帯では、野依先生による講演